

# 【平成 29 年 7 月の経済報告】

平成 29 年 7 月 21 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。初冬、平成 29 年 6 月の経済報告をお届けします。

## 1. 全般動向

5 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：104.7、一致指数：115.5、遅行指数：116.7 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 0.5 ポイント上昇し、2 か月連続ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.03 ポイント下降し、2 か月連続の下降となった。7 か月後方移動平均は 0.52 ポイント上昇し、10 か月連続の上昇となった。

一致指数は、前月と比較して 1.6 ポイント下降し、2 ヶ月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.17 ポイント上昇し、2 ヶ月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.37 ポイント上昇し、10 か月連続の上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 0.4 ポイント下降し、7 か月ぶりの下降となった。3 か月後方移動平均は 0.23 ポイント上昇し、10 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.42 ポイント上昇し、6 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201705psummary.pdf>

## 2. 各経済指標

### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 29 年 7 月 19 日公表）

日本経済の基調判断

（現状）

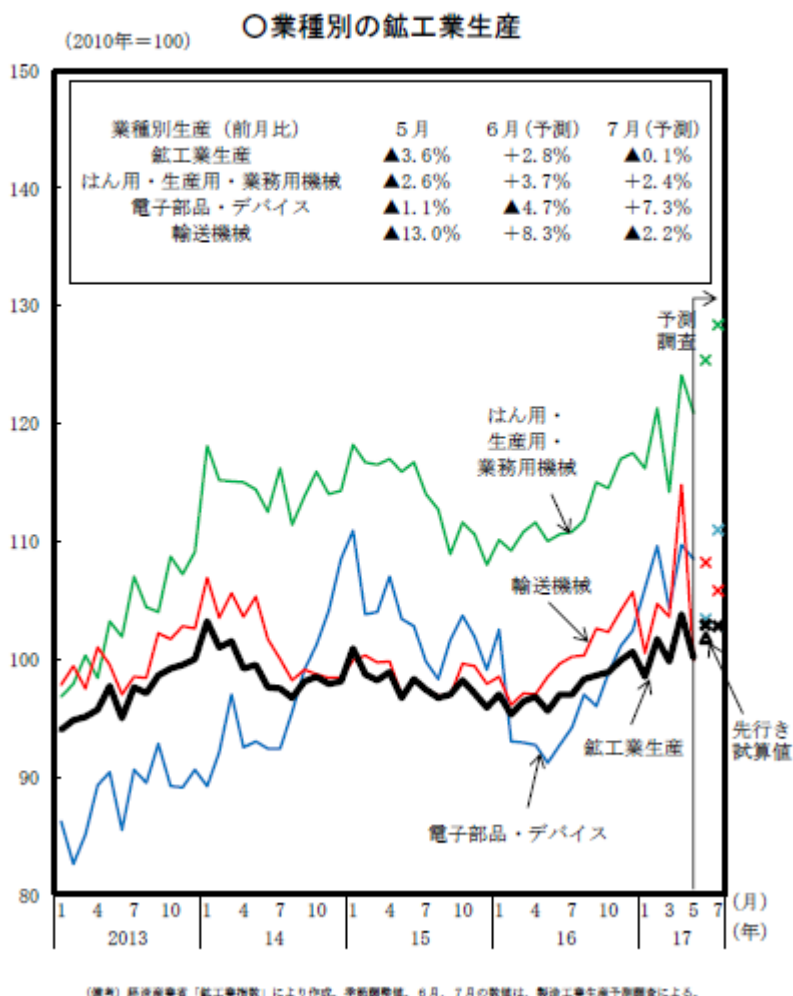
- ・景気は、穏やかな回復基調が続いている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

## 生産：持ち直している



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2017/07kaigi.pdf>

### ◎ 設備投資

#### 平成 29 年 4 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 7 月 10 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2017（平成 29）年 4 前月比 2.7%減の後、5 月は同 3.1%減の 2 兆 2,246 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 1.7%増の 9,442 億円、官公需は同 22.0%減の 1,846 億円、外需は同 5.2%減の 9,414 億円、代理店は同 2.0%減の 1,230 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2017(平成

29)年4月前月比3.1%増の後、5月は同3.6%減の8,055億円となった。このうち、製造業は同1.0%増の3,656億円、非製造業(除く船舶・電力)は同5.1%減の4,473億円となった。

### 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	2016年 (平成28年)			2017年 (平成29年)		2017年 (平成29年)			
	期・月 4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月 (実績)	4-6月 (見通し)	2月 (実績)	3月 (実績)	4月 (実績)	5月 (実績)
受注総額	-5.3	-1.1	13.4	-7.9	-0.9	-1.3	1.3	2.7	-3.1
民需	-11.5	2.5	10.9	-14.4	0.1	13.4	-12.4	1.4	1.7
〃(除船電)	-6.4	5.5	0.3	-1.4	-5.9	1.5	1.4	-3.1	-3.6
製造業	-8.5	1.9	2.7	-4.2	-1.1	6.0	0.6	2.5	1.0
非製造業(除船電)	-3.5	6.2	-1.0	0.0	-9.6	1.8	-3.9	-5.0	-5.1
官公需	-12.8	8.3	13.5	-1.9	-13.6	-35.4	15.0	-10.3	-22.0
外需	6.7	-8.6	15.5	-2.2	1.1	-1.1	-2.8	17.4	-5.2
代理店	-6.8	7.5	-0.1	2.2	-4.0	18.9	-3.1	0.8	-2.0

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1705juchu.html>

## ◎鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成29年5月分】(平成29年7月14日発表)

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)  
～製造業の動きから見る日本の景気～

### <概況>

製造工業稼働率指数は、99.8で前月比-4.1%の低下であった。

製造工業生産能力指数は、94.1で前月比0.1%の上昇であった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	99.8	-4.1	96.2	-2.5	5.7
生産能力			94.1	0.1	-0.5

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	100.1 (100.4)	-3.6 (-3.3)	95.1 (95.4)	6.5 (6.8)
出荷 (速報値)	98.2 (98.3)	-2.9 (-2.8)	91.3 (91.4)	5.4 (5.5)
在庫 (速報値)	111.3 (111.4)	0.0 (0.1)	110.5 (110.6)	-1.3 (-1.2)
在庫率 (速報値)	112.5 (112.5)	-1.9 (-1.9)	119.8 (119.8)	-3.6 (-3.6)

＜電子部品・デバイス工業、電気機械工業＞

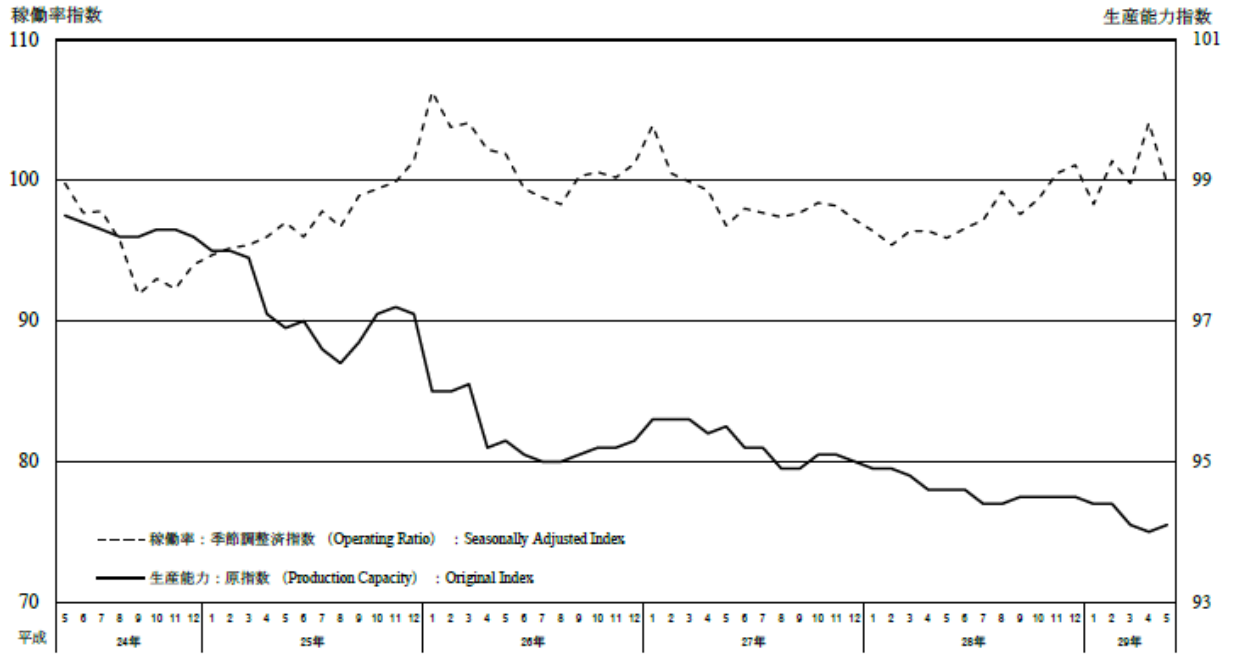
（１）５月の製造工業稼働率指数は、99.8で前月比▲4.1%の低下であった。業種別に見ると、輸送機械工業同▲12.4%、はん用・生産用・業務用機械工業同▲4.7%、電子部品・デバイス工業同3.3%が低下し、化学工業同0.7%、その他工業2.3%、石油・石炭製品工業同0.15%が上昇した。

（２）５月の製造工業生産能力指数は、94.1で前月比0.1%の上昇であった。業種別に見ると、電子部品・デバイス工業同0.6%、化学工業同0.1%等が上昇し、情報通信機械工業同▲0.3%、窯業・土石製品工業同▲0.1%、非鉄金属工業同▲0.1%が低下した。

### 製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)  
(2010 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表  
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100  
index.2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity				Year and Month	
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index					
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (同月期)比 %Change From Previous Year				
平成 26 年			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9	C.Y.	2014	
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3	C.Y.	2015	
28			97.7	▲ 1.0	94.5		▲ 0.5	C.Y.	2016	
平成 26 年度			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5	F.Y.	2014	
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8	F.Y.	2015	
28			98.6	0.6	94.1		▲ 0.7	F.Y.	2016	
平成28 年	I 期	96.1	▲ 1.8	98.3	▲ 2.9	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Q1	2016
	II 期	96.3	0.2	94.7	▲ 2.6	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2	
	III 期	98.0	1.8	98.2	▲ 0.5	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3	
	IV 期	100.1	2.1	99.6	1.8	94.5	0.0	▲ 0.5	Q4	
平成29 年	I 期	99.8	▲ 0.3	101.9	3.7	94.1	▲ 0.4	▲ 0.7	Q1	2017
平成28 年	3月	96.4	1.0	106.1	▲ 0.9	94.8	▲ 0.1	▲ 0.8	Mar.	2016
	4月	96.4	0.0	92.9	▲ 4.2	94.6	▲ 0.2	▲ 0.8	Apr.	
	5月	95.9	▲ 0.5	91.0	▲ 1.2	94.6	0.0	▲ 0.9	May	
	6月	96.6	0.7	100.1	▲ 2.3	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun.	
	7月	97.2	0.6	100.5	▲ 4.5	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.	
	8月	99.2	2.1	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.	
	9月	97.6	▲ 1.6	100.9	▲ 0.9	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.	
	10月	98.7	1.1	97.9	▲ 1.8	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.	
	11月	100.5	1.8	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov.	
	12月	101.1	0.6	99.3	3.0	94.5	0.0	▲ 0.5	Dec.	
平成29 年	1月	98.3	▲ 2.8	96.2	3.6	94.4	▲ 0.1	▲ 0.5	Jan.	2017
	2月	101.4	3.2	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb.	
	3月	99.8	▲ 1.6	109.8	3.5	94.1	▲ 0.3	▲ 0.7	Mar.	
	4月	104.1	4.3	98.7	6.2	94.0	▲ 0.1	▲ 0.6	Apr.	
	5月	99.8	▲ 4.1	96.2	5.7	94.1	0.1	▲ 0.5	May	

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010\\_201705nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201705nj.pdf)

## 2. その他の動向

### 1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2017.06.30 発表) を公表しました。

- ・ 2017 年 4 月グローバル出荷額は 3,118 億円、前年比 106.7% となり、前年比プラスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 105.4% 1,097 億円)、接続部品 (同 117.1% 876 億

円)、変換部品(同 112.6% 667 億円)、その他の電子部品(同 88.0% 467 億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比 122.2% 770 億円)、米州(同 101.7% 302 億円)、欧州(同 97.6% 308 億円)、中国(同 99.8% 1,050 億円)、アジア・その他(同 109.7% 690 億円)となった。

## 【月別出荷金額】

電子部品出荷額(億円)	2017年度						2017年度累計	
	4月		5月		6月		4月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
世界計	3,118	106					3,118	106
(日本)	770	122					770	122
品 目 別	受動部品	1,097	105				1,097	105
	コンデンサ	736	104				736	104
	抵抗器	121	105				121	105
	トランス	38	102				38	102
	インダクタ	199	108				199	108
	その他	-	-				-	-
	接続部品	876	117				876	117
	スイッチ	383	105				383	105
	コネクタ	487	128				487	128
	その他	5	131				5	131
	変換部品	677	112				677	112
	音響部品	166	141				166	141
	センサ	326	101				326	101
	アクチュエータ	183	113				183	113
	その他の電子部品	467	88				467	88
	電源部品	195	114				195	114
高周波部品	272	75				272	75	

## 【地域別出荷金額】

«2017年度»

地域別出荷金額(億円)	2017年度						2017年度累計	
	4月		5月		6月		4月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,118	106					3,118	106
日本	770	122					770	122
米州	302	101					302	101
欧州	308	97					308	97
中国	1,050	99					1,050	99
アジア他	690	109					690	109

### ※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データをとりまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。  
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっております。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上